

1	議席番号 4 番 中田 博之 議員	開始予定時間 12月10日 午前9時
<p>【登下校時における子どもの安全確保について】</p> <p>平成30年5月、新潟市において、下校途中の児童が殺害されるという、痛ましく許しがたい事件が発生し、今回のような事件が二度と発生しないよう政府は、登下校時における子供の安全確保について、関係省庁が横断的に取り組むべき課題であるという認識の下、平成30年5月18日、「登下校時の子供の安全確保に関する関係閣僚会議」を開催し、「登下校防犯プラン」として対策を取りまとめました。</p> <p>「登下校防犯プラン」では、登下校時における安全確保を確実に図るため「通学路における緊急合同点検等実施要領」により、平成30年9月末までに緊急合同点検を実施し社会全体で子どもの安全を守る為、この対策に迅速に取り込むこととされました。</p> <p>そこで、以下の点について質問します。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 国の「登下校防犯プラン」において、警察、教育委員会、学校、放課後児童クラブ、保護者、地域のボランティア、自治会等の関係者が集まり、登下校時における防犯対策について意見交換・調整を行う「地域の連携の場」を構築とあるが、当町の対応は。 (2) 「通学路における緊急合同点検等実施要領」に基づく合同点検実施結果において、対策が必要な危険箇所はいくつ確認されたか。また、対策が必要な危険箇所に対しては、どのような対策を講じているか。 (3) 緊急時に子供が駆け込める「子供110番の家」の設置状況及び教育委員会、学校において、通学に係る指導等を通じて「子供110番の家」に駆け込む訓練などの連携をどこが主体となって推進しているのか。また、今後新たな支援等をどのように考えているのか。 (4) 放課後児童クラブの来所や公設学習塾の帰宅時において事件、事故等を未然に防ぐ観点や発生時に備える観点から、危機管理体制・安全確保の現状と対策は。 (5) 子供の危険回避に関する対策の促進において、子供に危険予測・回避能力を身に付けさせる防犯教育の取り組みと実施状況は。 (6) 子どもの危険回避に関する対策の促進として、他市町では、ICタグを活用した登下校管理による防犯対策があるが、当町への導入は。 		

2	議席番号 12番	大石 巖 議員 開始予定時間 12月10日 午前10時
<p>【TCPトリビンスプランについて】</p> <p>文部科学省の学習指導要領の改訂に伴う授業時間の確保や教職員の多忙化解消、子どもたちの「確かな学力」の保障、保護者の教育環境づくりなどを内容とする「吉田町教育元気物語TCPトリビンスプラン」を平成29年2月の総合教育会議で決定しました。また、同年10月の総合教育会議において、教職員や保護者からの意見を踏まえて、年間授業日数を「220日以上」から「基本220日」に変更するなどの「今後の方向性について」を決定しました。</p> <p>来年度からの学習指導要領全面実施に備え、以下の点について質問します。</p> <p>(1) 昨年11月に行われた総合教育会議以降の議論と改善策の内容は。</p> <p>(2) 平成30年度に13回行われた教職員との「車座対話」による意識の共有などの取り組みは定例化しているか。</p> <p>(3) 増加した授業日を春、夏、冬季の休業日にどう捻出すると決めたのか。</p> <p>(4) 国の中央教育審議会でも「学校における働き方改革」の一層の推進が求められており、教職員の負担軽減のためには勤務時間管理の徹底、業務の見直しによる一人当たりの業務量縮減が課題となっているが、どう取り組んでいるか。</p>		

【治水対策について】

最近の異常気象。異常では無く、これからは、通常の気象状況になるといわれています。今年も、大型で強力な台風が日本を襲い、全国的にも大きな災害をもたらしました。

記憶に新しいところでは、台風19号。町内全域に避難勧告が出され、私も生まれて初めて避難をしました。町の中を流れる二級河川、坂口谷川と湯日川が氾濫の恐れがあるというものでした。

住吉地区においては、豪雨のたびに、住吉川、稲荷川、宮裏川の三つの小河川が溢れます。

当町のほとんどは、地形が平らなため、十分な勾配が得られず、海が満潮の時には、海水が坂口谷川や湯日川に逆流します。そのため、そこに流れる住吉川、稲荷川、宮裏川の流れが止まり、干潮になるまでは水がたまり続けます。大幡川も同様だと思います。

降雨量が多いと小河川沿いの土地は、冠水し建物の床下浸水や床上浸水、駐車車両の水没などの被害が発生します。

これは、いま始まった事ではなく、ずいぶん前から続いていることだと思います。

豪雨が発生するたびに、ほとんど同じ場所が冠水し、そこに住む人たちが不安な気持ちで時を過ごしております。

町内に住む人たちが、安心して暮らせるよう、しっかりとした治水対策が必要であることから、以下質問いたします。

- (1) 町の治水対策における整備計画の策定は、どのようになっているか。
- (2) 町の治水対策における各河川及び都市下水路の整備状況は、どの様になっているか。河川ごと、都市下水路ごとの現状は。
- (3) 第5次吉田町総合計画の中で、4年後の姿として、「災害への備えが図られ、浸水被害が減少しています。」とあるが、現状はどの様になっているか。
- (4) 当町において、河川及び都市下水路の洪水や冠水を無くすために何をすればよいのか。町が考える計画は。

4

議席番号 3 番

盛 純一郎 議員

開始予定時間

1 2 月 1 0 日 午後 1 時

【認知症徘徊等の見守り施策と事故救済を主目的とする損害賠償保険制度の導入の調査・検討について】

高齢化に伴い、65歳以上の認知症高齢者人口も増加の一途を辿っており、現在国内で推計600万人以上、団塊世代が後期高齢者となる2025年には700万人を優に突破するというデータが厚生労働省の「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」報告から出されています。

私は、こうした状況において、町内の認知症高齢者に対する様々な施策のうち、特に徘徊による行方不明や事故について、防止のためのさらなる配慮と発生後の損害賠償等の公的救済について考える必要があると感じています。

そうした観点から、当町の認知症高齢者の徘徊に関する施策について、以下の質問をします。

- (1) 現在、町内において、徘徊のおそれのある高齢者の概数と今後の推移をどの程度と分析しているか。
- (2) 徘徊のおそれのある人に対する施策としての見守りオレンジシールの配布実績と活用の評価は。
- (3) GPS機器使用の助成事業の町民の利用実績とその評価は。
- (4) 民間保険を使った事故救済制度を独自に導入・運用開始している自治体が、朝日新聞デジタルの報道によると、全国ですでに39市区町村あり、来年度以降の導入や検討、調査研究を実施中の自治体も複数あることを確認している。こうした各自治体の取り組みに対する町長のお考えは。また当町への制度導入の検討は。

【豪雨災害から命を守る避難計画と対策について】

10月に発生した、台風15号の暴風による被害、台風19号の記録的な豪雨による河川の氾濫や数えきれないほどの堤防の決壊による甚大な洪水被害、広い地域で災害の傷跡が残った。

各地に被害をもたらす、大型で巨大な、瞬間最大風速70メートルを示すような台風や記録的な豪雨災害をもたらす台風、また、爆弾低気圧による集中豪雨で起きる洪水災害から命を守る計画を準備し、訓練をしておかなければならない。自然の破壊から守るためには、災害を防ぐ努力と、災害を可能な限り減らす準備をしなければならない。減災を考えることが必要である。

議会報告会での町民の皆さんとの意見交換会では、住吉、川尻、片岡、北区、それぞれ台風19号の豪雨での避難や避難場所の話題が多く提供された。湯日川の千草橋には、県が管理する水位観測所があるが、その水面上昇の数値が危険水位まで達したこともあり、避難に不安を示す意見が確認された。

避難場所に対する不安、洪水災害に対する避難訓練、そして、災害時要援護者に対する対応も関心事であった。神戸区域でも、床上浸水1軒、床下浸水1軒も確認された。

台風19号の記録を踏まえ、以下の点について質問します。

(1) 避難の計画について

- ① 町はいち早く避難勧告を出したが、避難指示、避難勧告、避難準備等の避難レベルの基準は示されているか。
- ② 避難指示による、全員避難を受け入れる避難所の数と配置は適切であると考えているか。
- ③ 避難場所の指示は良かったのか。避難所の自彊小学校体育館が避難者でいっぱいになり、定員オーバーになったら教室を開放するのか。

(2) 避難所の場所について。台風19号の記録から、河川の土手の決壊は予測できない。

- ① 自彊小学校への避難は湯日川を越す危険を心配する意見がある、神戸西会館やよしきたを含めた地域計画の再考はしないか。
- ② 避難箇所を増やし、全体的にバランスのよい配置にする必要があると思うが、町の考えは。

(3) 高齢化に伴う、確実に増える災害時要援護者について

- ① 避難の際、目や体の不自由な方、高齢な方の避難に困難が生じた。災害弱者の名簿の活用の拡大は考えているか。

6

議席番号 2 番

楠元 由美子 議員

開始予定時間

12月11日 午前9時

【展望台小山城の更なる賑わいと周辺的环境整備について】

我が町のシンボルである展望台小山城。先日行われた町の3大イベントのひとつ「小山城まつり」では、天気にも恵まれ、大勢の方々が訪れ盛り上がりました。

また、桜の季節には、近年、能満寺山公園において、夜桜ライトアップを実施し、来場者数も年々増えております。

今年7月には、小山城前広場売店が新たな賑わいとして「しらすのまどぐち」と名前を変え、リニューアルオープンしました。

益々、賑わいを見せるであろう小山城の明るい未来を踏まえ、以下質問します。

(1) 小山城内には、町の重要文化財も展示されておりますが、町では、これら展示物や来場者に対し、どのような安全対策・防火対策を行っているのか。

(2) 7月にオープンした「しらすのまどぐち」について、業績は怎么样了か。また、効果をどのように把握しているか。

(3) 高齢者や障害者の方々にも足の運びやすいよう、平成26年9月議会及び平成28年9月議会において同僚議員が質問し「高台に駐車場を」と答弁されている、資料館西側の活用についてどのようになっているのか。

(4) 能満寺山公園北側の大手門に繋がる勾配のある道沿いの木が、台風の影響か幹が割れて、今にも倒れそうになっていたり、すぐ脇を流れる神戸川に面した山側から、竹が何本も倒れていたりしています。

この川は、以前にも氾濫し、周囲の田んぼへ水が流れ出し、大きな被害をもたらした事もあります。

周辺的环境整備において、町では、どのような対応をされているのか。

【子育てしやすい環境づくりについて】

我が町は、子ども医療費無償化を、全国でもいち早く取り入れ、昨年度は18歳までの無償化が拡大されました。また、インフルエンザの補助金制度も始まり、子育てしやすい環境になってきています。

今年の10月より、国が幼児教育・保育の無償化を始めることで、益々、子育てしやすい環境となってきました。

更なる安全で安心して子育てしやすい環境づくりのために、以下質問します。

(1) 幼児教育・保育の無償化に伴い、保育園・幼稚園を利用される家庭も、今後、増えてくると考えます。

身体が成長段階である幼児には、集団生活の中で感染症などの影響も受けやすいと私は考えますが、保育園・幼稚園では、感染症対策をどのようにしているのか。

(2) 我が町は、平成29年度より、吉田町教育大綱における切れ目ない効果的な「つながりある教育」を推進するために、幼児教育カリキュラムに基づいた教育実践を町内10施設で行い、平成30年度では継続して2施設において行っています。

これらの実践から、どのような変化があったのか。また、実践から得た新たな町の課題をどう捉えているのか。

7	議席番号 5 番	平野 積 議員	開始予定時間 12月11日 午前10時
<p>【令和元年度全国学力・学習状況調査結果を踏まえての「家庭学習」について】</p> <p>吉田町では、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、成果と課題として公表しています。その保護者向け文書として「令和元年度全国学力・学習状況調査から見える吉田町の成果と課題について」を配布しました。</p> <p>その中で、「子どもたちをさらに伸ばしていくために『学校と連携しながら、家庭学習への取組を推進していきましょう！ 家庭には家庭にしかできない支援があります！！』と記載し、家庭教育の重要性を訴えています。</p> <p>私は、基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやり、善悪の判断などの基本的倫理観、社会的なマナー、自制心や自立心など「生きる力」の基礎的な資質や能力は、家庭教育においてこそ培われるものと考えます。</p> <p>そこで、以下の点について質問します。</p> <p>(1) 「令和元年度全国学力・学習状況調査から見える吉田町の成果と課題について」のまとめに関して、教育委員は関与しているか。</p> <p>(2) 保護者向け文書中の「家庭にしかできない支援」とは何であると教育委員会は考えているか。</p> <p>(3) 本年度より放課後児童クラブの入所条件が大幅に緩和された。 これは、家庭教育の機会の減少に繋がると考えられるが、入所条件の緩和に関して、こども未来課と教育委員会では、どのような議論が行われたのか。</p>			

【町の地域教育推進事業について】

令和2年(平成32年)に新学習指導要綱が変わり、新しい授業も加わり、授業時間も増えてくる。吉田町も、TCPトリビンスプランの中の授業の平準化で、4時間授業日がさらに行われていくと考えられる。

町では、子どもを預かるという放課後児童クラブとは別に、放課後子ども教室や各小学校区で、地域教育推進事業が行われている。

平成30年度決算資料では、意図として、地域の特性を生かした体験活動を通して、地域の大人が地域の子どもを育てる体制づくりを推進するとある。また、効果に、4時間授業日に対応した放課後子ども教室の満足度は保護者、子ども両方とも高い。

そこで、放課後子ども教室や各小学校区で行われている地域教育推進事業について、以下の点について質問する。

- (1) 町は、放課後子ども教室推進事業委託をしているが、運営や教室の開催、内容など、課題には、どのようなものがあるか。
- (2) 総合戦略KPIでは、放課後子ども教室の設置は2か所と掲げている。現在、中央小学校区に1団体あるが、進めていくために、どのように考えているのか。
- (3) 各小学校区で、地域教育推進事業で補助金を出しているが、各団体から運営や教室の開催、内容について、どのような課題があるか。
- (4) 住吉小学校区において、現在行われていない、4時間授業日に対応した放課後子ども教室や地域教育推進事業の開催について、どのように考えているか。

【町の防災士の役割について】

町は、第5次総合計画の前期基本計画で、「災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり」の中で、「地域防災力を高める」と掲げ、地震・防災対策の分野では、「地域防災力の向上が図られた災害に強いまち」を目指す状態としている。

津波避難タワーや避難路等のハード面においては、着実にその整備が行われている。また、ソフト面においても、防災士の養成について行ってきた。

その防災士の役割について、以下の質問をする。

- (1) 多くの防災士、ジュニア防災士を養成してきたが、防災士の活用について町はどう考えているか。
- (2) 防災士の養成に当たり、今後の課題はどのようにとらえているのか。